

インドネシア、バンダ・アチェの障がい者とともに災害について学び、備える (2024/7/17-26)

テーマ： hazard, disaster, disability, vulnerability, resilience, 2004 Indian Ocean earthquake and tsunami, inclusiveness

場所： Banda Aceh, Indonesia

URL：<https://www.kafalahindonesia.org/>
<https://www.slbtncc.sch.id/>
<https://aiwest-dr.usk.ac.id/#overview>

2024年7月17日～26日、ボレー・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）、朴慧晶助教（災害医療情報学分野）、およびインドネシアの協力者であるSyiah Kuala大学のAlfi Rahman教授は、インドネシアのバンダ・アチェで災害と障がいに関わるフィールドワークを実施しました。この国際協力は、社会レジリエンスを強化、災害リスク軽減への包括的なアプローチを開発することを目的としています。

2004年インド洋津波災害から20年後の災害と障がい

我々の研究チームは2023年7月より、インドネシアのバンダ・アチェで、障がいのある当事者や障がい者のための福祉・防災に携わる団体へのインタビューを行ってきました。今回はインドネシアのKAFALAH（カファラ）現地事務所の協力を得て、10名以上の当事者たちとのインタビューを実施しました。グラフィックデザインに携わる聴覚・言語障がいのある20代の若者から、視覚障がい者のためのNGOを率いる年配の男女まで、多様な人々の経験について聞きました。また、身体に障がいのある2人の若者（YouTubeのコンテンツクリエイター（フォロワー約40万人）と障がい者活動家）のそれぞれの生活について聞きました。これらのインタビューを通じて、アチェ社会における障がい者の災害認識や経験、社会との関わりやコミュニティ、地位や福祉に関する洞察を得て、障がい者の包括的な姿を把握しました。

インタビューでは、彼らのニーズと同じくらい能力についても多くのことが明らかになりました。彼らは、インクルーシブ防災を達成するには、障がい者のエンパワーメントが必要だと考えていました。このインタビューの成果として、インタビュー対象者の一部とカファラ財団の代表者が、AIWEST-DR学会（2024年11月8日～9日）の「災害と障がい特別セッション」に招待されました。特にボレー准教授は、障がい者の世界で働く人々が彼らのコミュニティと経験を共有する包括的なプラットフォームを提供することを目的とする「アビリティプロジェクト」というコンセプトを提案しました。

障がいを持つ生徒たちのための災害備えプログラム

7月22日～24日までSLB TNCC（Sekolah Luar Biasa the Nanny Children Center）にて災害教育および避難訓練も行いました。参加者は、SLB TNCCの33人の教師と身体および知的障がいのある60人の生徒たち、我々の研究チーム、NGO、Basarnas Aceh（インドネシア国家捜索救助機関）の支援者などでした。1日目は教師のトレーニングで、英語とインドネシア語の資料の最終レビューを行いました。2日目は、自然災害と早期予防策を生徒に紹介し、意識を高めることに重点を置かれました。3日目は、地震と津波における対応・避難訓練を行いました。

このイベントにより集団的・機械的な連帯感を高め、災害リスク認識が向上して災害発生時に自分の命を守ることができるようになりました。また、教師間、教師と生徒間、そして生徒同士の相互支援が促進されました。このプログラムは、参加者が危険や危険な状況について積極的に学び、自己防衛行動を学び、学校内で避難の練習ができるように、適応されたタスク（ビデオ、カードゲーム、危険の彩色など）が行われました。それにより、生徒と教師は積極的に参加し、能力を証明し、授業と訓練を自分たちのものにしました。地元のニュースで報道されたように、この経験は学校に長期的に影響を与え、これからの道を開くことができました。

（次頁へつづく）

最後に、ボレー准教授、朴助教、Alfi教授は、シアクアラ大学の津波・災害軽減研究センター（TDMRC）のシャムシディク教授を訪問し、2024年11月8日～9日にバンダ・アチエでの2004年インド洋津波災害の20周年を記念するAIWEST-DR 2024について話し合いました。シャムシディク教授は、社会的包摂能力とレジリエンス力を構築するためのより幅広く包括的な視点を提供するために、障がい者の経験に関する私たちの研究は重要で独創的だと指摘しました。また、災害と障がいに関わる特別セッションに加えて、今後インドネシアで開催される災害対策活動に関する全国会議で私たちの研究結果を発表するようご招待いただきました。



インドネシア・カファラ（NGO）
フォーカスグループインタビュー



SLB TNCCでの災害ワークショップ
Drop, Cover, and Hold on セッション



災害認識を高めるための彩色活動



SLB TNCCでのグループ写真



避難訓練の様子